



# STEP UP

【発行】税理士法人 TACHIBANA  
 〒832-0824 福岡県柳川市三橋町藤吉525-1  
 TEL.0944-74-1915 FAX.0944-74-1004  
 tachibana-cpa@tkcnf.or.jp  
<http://tachibana-cpa.com>



新年あけましておめでとうございます。クライアントの皆様におかれましては、つつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中も、新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年でしたが、九月中旬以降、国内の新型コロナウイルス感染者数は激減しています。このまま、新年は普通の生活に戻る一年であればと期待しているところです。

さて、昨年10月4日に発足した岸田政権は、「成長と分配の好循環」「令和の所得倍増計画」などの経済政策を掲げています。「成長と分配の好循環」は安倍政権も掲げていましたが、今まで以上に分配に力点を置くことなのでしょう。具体的には、分配面では①賃上げ企業への税制上の優遇②看護、介護、保育、幼児教育などでの給与の引き上げを所信表明演説で明らかにされました。セーフティネットの構築と所得の再分配機能は違うものだとし、働く者への給与のアップに対しては企業に今まで以上の税制上の優遇を図るという考え方には共感を覚えました。

私が松下電器産業(現パナソニック)に入社した頃は、まだ第二次産業革命(電気、石油による重化学工業化)による大量生産、大量消費の時代で、学友の多くも重厚長大型の製造業に就職し、工場では多くの労働者が働いていました。大企業で働く労働者の旺盛な消費は経済成長を支え、「物的な豊かさ」を実現しましたが、その後のグローバル化の進展、イノベーションは、工場の海外移転、労働集約型の製造業を資本集約型産業へと変身させ、多くの労働者の雇用の機会を奪いました。

広井良典京都大学教授によれば、労働生産性の向上により生じた余剰の労働力は、生産性が低い、労働集約的な分野、例えば福祉等の分野に積極的に投下すべきだと主張されています。我が国の現状は、労働力余剰の状態とは思えませんが、産業別就業者構成割合の推移をみると、製造業、卸小売業で就業人口を大幅に減らし、社会福祉・介護事業で大幅に就業人口を増やしています。この結果をみると、労働者の産業間の移動はスムーズに行われているように見えますが、問題は、産業別就業賃金水準の中位の製造業、卸小売業から、産業別就業賃金水準の低位の社会福祉・介護事業への移動ということです。

社会福祉・介護事業で労働需要が旺盛ということは、社会福祉・介護事業への需要も多いということになります。社会福祉・介護事業が市場経済の価格調整機能により需給バランスをとるのであれば、社会福祉・介護事業サービスの価格が高騰し、社会・福祉・介護事業で働く人の賃金も改善されるでしょう。しかし、社会福祉・介護事業を市場経済の中に取り込むことは、社会福祉・介護事業サービスの必要な人に平等にこれらのサービスを提供するというセーフティネットのシステムを壊す可能性があるので私は反対です。

今回の経済対策でも介護職員等の処遇改善は図られていますが、どうしたら、社会が必要としている社会福祉・介護事業で働く人の処遇を根本的に改善することが可能でしょうか。それには、①社会保

障制度改革国民会議報告書にあるように、年金制度や高齢者医療制度、介護保険制度は、子供が老親を扶養するという私的扶養を社会化したもの②佐伯啓思京都大学名誉教授がおっしゃる様に、私たちは、私的財を買うのに対価を払うのを当然と考えているように、税金は公共サービスを得るための費用と考えられること③サービスの提供側は、生存を保障する最低限の医療・福祉に照らして過剰なものはないかといったことを検証すること。以上のことを政府は国民に丁寧に説明し理解を得た上で、国民と納得いく国民負担(対価)の合意を得ることが必要ではないでしょうか？

一方で、私たちは物的な豊かさや経済成長を追求するあまり、私たちの生活の豊かさの追及を忘れていたかもしれません。「フランス人は10着しか服を持たない」という本で、若いアメリカ人がフランスの貴族の末裔の家にホームステイした際に、素晴らしい部屋に案内されたものの、そこには小さなクロゼットしかなく、アメリカから持ってきた荷物が収納できず唖然としたと、また一方で、元貴族のフランス人は、センスの良い僅かな服を取り換え引き換え着用し、実に、堅実で質素な生活をしていましたが、礼儀作法や身だしなみはうるさく、毎日食事はコースで出てきたという体験談を記述しています。このことは、私たちが物的な豊かさの中で忘れていた生活の豊かさのあり方を示唆しているように思います。今年も宜しく願います。



## 私の息抜き

もり こういち  
TEXT by 森行一



はじめに

公認会計士の森行一と申します。立花先生より「STEP UP」寄稿のご依頼があり、引き受けたものの何を記載していいものか悩みましたが、仕事に関することは、立花先生はじめ立花公認会計士事務所および税理士法人TACHIBANAの方々が習熟されていらっしゃるし、同業でもあり、今更の感を覚えましたため、わたしの息抜きとでもいいですか、好きなこと、趣味についてつらつらと書き述べていきたいと思えます。

趣味は何ですかと聞かれた際は、いくつかやっているなかで“落語”や“陶芸”とお答えしています。陶芸とお答えした際には、たまにへえ〜との反応がある場合がありますが、わたしもですといった局面にはなかなか出会ったことはありませんので、こういったことを趣味としているものは少数派なのかなと思っています。

そうとしても、2つともわたしの息抜き法でもありますし、甚だ恐縮ではありますが、お付き合い願えれば幸いです。

落語

落語といいますが、演じる方ではなく、もっぱら聴く方です。

落語との出会いは、小学校のときに落語をラジオで聞いていた記憶があります。随分古い話ですが、昭和30年代後半～40年代前半でしょうか。名人といわれていた桂文楽、古今亭志ん生などの落語をラジオで聞いていた記憶があります。当時はラジオで落語番組がそこそこ放送されていた時代ではないかと思われま

す。高校卒業後、進学先が東京でしたので、行ってみたかった寄席に行き、生で落語を聴き、面白くかつ当時大看板と言われていた三遊亭圓生師の落語に感動し、少しずつ嵌っていきました。昭和50年代前半から昭和が終わるころの落語家の方々の噺を聴きに寄席にホールにとほぼ毎月通っていました。当時は、映画料金と落語料金(木戸銭とも言いますが)が同じくらいの金額だったかと記憶しています。今は落語の方が高い料金設定となっているかと思われま

す。東京でも寄席もホール落語も少なくなり、寂しい限りですが、落語家の人数は人口減少に反して増加しているようです。桂文楽、古今亭志ん生亡き後の大看板であった三遊亭圓生、柳家小さん、林家正蔵、上方の桂米朝、笑福亭松鶴、桂文枝(先代)やそのあとの世代となる古今亭志ん朝、立川談志、三遊亭圓楽(先代)、金原亭馬生、春風亭柳朝、柳家小三治、上方の桂枝雀など今思い出しても豪華な顔ぶれの落語を生で聴くことができたのは大変有難く、貴重なことだったと思っています。

特に小三治師は、東京から福岡(平成元年に福岡にUターンしました)に戻ってきた際に福岡で定期的に独演会が開催されていたので、ほぼ毎回通いました。東京での独演会のチケットが入手困難な落語家でしたので、福岡で聴くことができ、大変有難いことでした。令和3年10月7日に残念ながら逝去されましたが、福岡では同年8月4日に開催されたイムズホールでの独演会が最後となってしまいました。今となれば最後の噺を聴くことができ、幸せなことだったと思っています。長年に亘り、楽しく、貴重な噺を聴くことができ、感謝しかありません。

今は、福岡でも落語会も頻繁に開催されていますし、YouTubeなどで動画を観ることもできますし、気楽に楽しむことができるようになったのかと思われま

す。以前は出張で上京時に時間あれば寄席に行ったり、ホール落語の開催があれば行ったりしたものです。部屋にいる際には、BGMならぬBGR(バックグラウンド落語)を楽しんだりしています。

興味のある方は落語会に足を運んで生の高座に接していただければあらたな面白みを感じられるのではないのでしょうか。

山三治

## PROFILE

森 行一(もり こういち) / 公認会計士

昭和30年(1955年)生 福岡県大牟田市出身 三池高校、早稲田大学政経学部卒  
 監査法人太田哲三事務所(現EY新日本有限責任監査法人、以下同様)東京事務所入所後、太田昭和監査法人  
 福岡事務所勤務、新日本有限責任監査法人福岡事務所長、日本公認会計士協会北部九州会会長などを歴任し、  
 平成30年(2018年)6月同監査法人退職、同年7月 森行一公認会計士事務所開設。

## 陶芸

陶芸も小さいころから何故か器が好きで、高校の時には自宅から自転車で40~50分ほどのところに小岱窯の窯元がありましたので、窯元に行って作品や作業場、窯などいろいろ見せてもらったりしていました。いつか轆轤(ろくろ)なるものを回してみたいなあとぼんやりと思っていたことを覚えています。

とはいえ、大学、社会人となっても、実際に土に触れる機会はなく、ただ器は好きで展示会や個展などはときにのぞいたりしていました。そうこうしているうちに知り合いの知り合いの方(まったく知らない方ですが)が福岡市内の陶芸教室に通っているとの話を聞き、行けないですかねえなどと話をしていましたら、空きがあるようなのでどうかとの話をいただいたのが、実際に陶芸に触れるきっかけとなりました。早いもので始めてから25年ほど経ちます。四半世紀も続けていけば腕は上達するものと思われるでしょうが、なかなかそうは上手くいかず、脱皮できないまま時間だけが経過しています。

紹介を受けた陶芸教室で轆轤(ろくろ)や手びねりを教えてもらい、ぐい呑み、湯飲み、茶碗、皿、鉢、花瓶などなど器かがらくたか区別が分からないものを作り、自分なりにまあいい出来栄えだと思った(勘違いした)ものを人に配ったりしたのですが、今となっては、周りに迷惑を掛けたものだと思反省しています。

とはいえ、土練り、成形、削り、素焼き、釉薬、本焼といった過程を経て、焼き上がった器の出来具合を見ることは大きな楽しみです。

10年ほど前からは、陶芸で知り合った人たち数人と佐賀市三瀬に工房を借りて我流での作陶に励んでいます。釉薬は陶芸の書籍を参考に自分なりに原料をいろいろ混ぜながら釉薬を作ったりしています。ときには藁を焼いて灰にしたものを半年以上かけて何回も漉して、灰汁抜きをして、乾燥させたものを釉薬として使ったりしています。これも時間も手間も掛かりますが、手作りの釉薬での施釉を楽しむことができ、面白さも増すのかと感じています。趣味は何ですかと聞かれた際に陶芸をやってますと言いますと、よく『何焼きですか?』と聞かれることがありますが、我流で好き勝手にやっている陶芸ですので、『お好み焼きです』と答えています。

ただ、陶芸も思いのほか体力勝負で本焼はガス窯を使用していますため、仮眠をとりながら24時間ほど掛けて1230度程度まで徐々に温度を上げていくことが必要となりますので、ほぼ徹夜状態となります。

寄る年波のせいか最近では本焼の回数も少し減少気味となっていますが、借りている工房には登り窯もあり、2年ほど前には登り窯で本焼を行い、薪による窯焚きの面白さや魅力が忘れられず、再度登り窯に挑戦したいと思っています。

## おわりに

好きなことをつらつらと書き綴って来ましたが、好きなことをやっていますがすべて首尾よく進むわけではなく、特に陶芸などはほとんどが失敗の連続です。しかしながら、失敗が続いている中で首尾よく焼けたり、たまには(ホントにたまにですが)思いがけない出来具合になったりと喜びをもたらしてくれるものなのかと思っています。

落語も同じ噺を聴いてどこが面白いのかと思われるかもしれませんが、自分なりに感じていることは、落語の面白さや良さは、ストーリー性や話術が卓越したものであることに加え、一つ一つの言葉はどういうことではないものかもしれませんが、それらが上手く積み重ねられ、噺に不思議な厚みがついてくるのかと感じていますし、長い問話芸として続いている所以があるのかなどと思っています。

皆さま方も好きなこと、あるいは没頭されている趣味などがあるのかと思います。他人から見れば他愛のないことでも当人にはとても面白いこと、興味が湧いてくることや大切なことがあるものだと思います。そういったことが良き気分転換となって日々の仕事や生活に励んでいければいいのかなあなどと思っています。

文：税理士 小林達哉

「令和」の由来となった「梅花の宴」は天平2年(730年)に、太宰府の長官であった大伴旅人邸で催されましたが、その大伴旅人が、その年の12月半ばに奈良の都に帰任するまでの3年余り、筑後守(筑後国府の長官)として旅人と親交があったと思われる万葉歌人に葛井連大成(ふじいのむらじおおなり)がおります。百済王族の子孫であった葛井連大成は、当時筑後国府の長官でした。筑後国府は、久留米市合川町から御井町一帯にあり、筑後地域の政治と経済の中心地でした。国府とは、奈良時代に全国に置かれた役所のことです。昭和36年から実施されてきた発掘調査では国司の館の跡や、政庁の跡が見つかっており、現在、遺跡の重要な地区については、その遺構が保存され、公有地化が進められています。

大宰帥大伴卿が京に上りし後に、筑後守葛井連大成が悲嘆しびて作る歌一首

今よりは 城の山道は 寂しけむ 我が通はむと 思ひしものを 巻4-576

あれほど懇意にしていたでいた旅人さんが、奈良の都に帰ってしまわれて、旅人さんがいない太宰府に向かう城山(基山の別名)越えの道は、行きたい行きたいと思って通っていたこれまでのように楽しい道のりではなく、どこか、味気なく、寂しい気持ちで向かう道のりになってしまいました(意訳)

右の万葉歌碑は、基山町中央公園内に移設されているとのこと。

筑後国府(久留米)から太宰府に、城山(基山)を越えて、足繫く通うことができたのも、気心のしれた上司がおればこそ。その方がいなくなってしまった後に、仕事で太宰府へ向かう大成の足取りは、さぞや、重くなったことでしょう。

大伴旅人太宰府在任中には「梅花の宴」のような、大成にとっての晴れの場が、活躍の機会が、あったのです。



梅の花 今盛りなり 思ふどち 挿頭(かざし)にしてな 今盛りなり 万葉集巻五

梅の花は、今が盛りですよ、歌心を共感し、理解しあう“チーム大伴旅人”の皆さん、粋に梅の花を頭に挿して、さらに盛り上がりましょう!(意訳)



この歌は葛井連大成が梅花の宴で詠んだ歌で、梅花の宴とは、梅歌の宴だったのだなあと感じてしまいます。梅花の歌は、32首あり、当時、外従五位下の葛井連大成は、宴の出席者の中では7番目の官位で、6番目に詠ったことになるようです。主催者である大宰府長官の大伴旅人の言葉“初春の令月にして気淑く風和らぎ”の後に、次席である大宰大貳、そして3番目に大宰少貳が続き、4番目には、万葉集の有名人・山上憶良さん、その後もう一首惜別の歌が詠まれ、その次に出番が巡って来た葛井連大成は、話題を変えて、宴の参加者に梅の花を頭にさすという大胆な提案をします。

現代人の私は、このタイミングで、話題を変える、流れを変えるこの提案をするのは、かなり勇気がいることだったのではないかなと想像してしまいます。主催者である大伴旅人との良好な関係があればこそ、大成も才気煥発に、大胆不敵な歌を詠むことができたのではないのでしょうか。梅花の宴で、大成は、きっと晴れやかな気持ちになったはず… 私たちも、流れを変える大胆な発想で、さらに盛り上がりましょう!

## 遺言書のミニ知識

文：金子誠剛司法書士事務所

昨今の相続手続き促進の流れからか、遺言書の書き方や、新しい制度についても法務省のホームページやさまざまな媒体で、たくさん紹介されています。ここでは、あまり一般的には知られていないであろう条文を紹介します。民法第961条（遺言能力）十五歳に達した者は、遺言をすることができます。つまり、15歳から遺言を遺すことが出来るのです。自筆証書遺言に作成日付を自筆することは有名です。年月日吉日はダメです。理由の一つはこの条文から来ています。年月日吉日では、遺言書作成時の遺言能力が判別できないからです。15歳の年齢でできることは、実は結構あります。単独で養子となることが出来たり、氏の変更が出来たり…話が脇道に逸れましたが、私は依頼者の方に「遺言書を書くことが原則です。」と話しています。「財産権の保障の観点からも、自分の財産は自分で自由に始末できます。（始末すべきです）でも、多くの人が遺言を遺さずに（勝手に）亡くなるから例外的に法律で定められた法定相続分で財産の帰属が決まってしまうんですよ!」と。他には、お子様がいないご夫婦の場合は特に強く遺言書の作成を勧めます。そんな私ですが、まだ遺言書を作成していません。



【ヘルアソ!通信】

## 皆が気になるがん保険

文：株式会社ヘルスケアアソシエイツ

弊社(株)ヘルスケア・アソシエイツの取扱商品にひまわり生命のがん保険がありまして、有難いことにこれがかかり好評を博しております。保障でカバーできる範囲が圧倒的に広がったことと、保険料がひと昔前よりかなり安くなっていることが主な理由です。生命保険は定期的に見直した方がよいという理由はまさにこの生命保険の進化にあります。また、2人に1人ががんになると言われる時代だからこそ、福利厚生目的での法人契約を検討される企業も増えてきたことも一因です。純粋な保障としてはもちろん、人手不足の中での人材流出防止、または人材確保という観点からも検討の余地があると考えられているようです。その場合、終身のがん保障を退職時に現物支給としてお渡しするケースを想定されている企業が多いようです。弊社ではお客様のご要望に応じて保険会社9社の取扱の中から最適な商品をご提案可能です。また、福利厚生規程の整備等も最大限お手伝いさせていただきますので、お気軽にご相談いただければ幸いです。余談ですが、新型コロナに本人が感染して自宅待機となった場合、医療保険（入院日額～円）の保障対象となる保険会社がほとんどです。頭の片隅にでも入れておいてはいかがでしょうか。



## 浦田 充子 (令和3年12月入社)

2021年12月に入社いたしました浦田と申します。前職では監査法人で監査を実施しておりました。これまでの経験を活かし、皆様のお役に立てるよう日々精進して参ります。不慣れな点が多々あるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



## 龍紀 美子 (平成8年入社)

いま私の楽しみの一つは歌舞伎・ミュージカル・劇の鑑賞です。華やかな舞台を観ると心が躍ります。つかの間、非日常の世界に入り込み、泣いたり笑ったり感情が揺すぶられた後現実に引き戻された時すっきりした気分になります。複雑な仕事・人間関係のなか、何かしら自分の癒しを探すことは重要だと思います。

## 泓原 順子 (平成13年入社)

最近、山登りにハマっています。先日、霧島連山の韓国岳に登頂した際、初めて雲海を見ることが出来ました。美しく広がる雲海の中に霊峰高千穂峰の頂が見え、そこに朝日が差し込むさまは幻想的で素晴らしく、まさに絶景でした。雄大な自然が織りなす景色に大感動です。



## 境和史 (平成16年入社)

先日数年ぶりに映画を見てきました。司馬遼太郎原作の「燃えよ剣」という作品で幕末から明治にかけて新選組を中心とする若者たちの青春群像劇です。激動の時代を志し、信念を貫き敗れていく者たちのカッコよさや儂さが描かれていました。日本人は判官贔屓で敗者の美学が好まれますが、勝ち残るためには情報を見極め、いち早く変化へ対応することがいつの時代でも大切だと感じました。

## 平田 千佳 (令和元年入社)

昔からインドアで出不精な性格でしたが、キャンプ好きな義父に影響されキャンプにハマり、先月と先々月に主人と行ってきました。食べる事が好きな私にとって1番の楽しみはキャンプ飯。外で食べると一段と美味しく感じます。寒い時期のキャンプはオフシーズンと言われていたのですが、暑いのが苦手な私は今の時期の方がベストシーズン。帰りに温泉にゆっくり浸かるのも気持ちが良いです。主人はアウトドア派なので、一緒に楽しめる趣味ができて嬉しいです。



## 事務所スタッフ近況



## EDITOR'S NOTE

— 編集後記 —



🐼 マスク生活も2年になり玄関や車の中とマスクを常備し、忘年会、新年会も規模の縮小や中止となり、さらに第6波は、オミクロン株は、3回目接種はと、新たな問題が生じなかな終息の時が見えない中、自宅で過ごす時間が多くなりました。代表の言葉を借りると、生活の豊かさを考える機会なのかなと思います。断捨離を始めます。事務所通信は20回目の刊行となりました。原稿を寄せていただいた多くの皆様に感謝いたします。これからも、生活の豊かさの一部になれるような紙面づくりを目指しますので、原稿依頼がありましたら、よろしくお願いいたします。(そ)

🐼 キャンプに行ってきました。冬といえばお鍋!今回は豪華にすき焼きをチョイス。甘い割り下にお肉を絡め、お野菜を入れてグツグツと。澄んだ空気の中、アツアツをはふはふ言いながら食べる鍋は格別でした。冬キャンの沼にはまりそうです。(な)

🐼 初老が近づいてきた昨今、食事制限をやってみました。制限前と4か月後で血液検査をしてみたところ、明らかに違う数値の数々…体というものは食物で構成されているのだと再認識させられました。年末年始の様々な誘惑と戦いつつ、この状態をキープ出来たらなと思っています。(OK)

🐼 暑い日々が長くて少し肌寒いかな?と思い始めたら、急に本格的な冬のような寒さになって、お気に入りの秋服を着るタイミングを失ってしまいました。でも毎年毎年、去年の事は忘れてしまい、いつ寒かったのか暑かったのか全く思い出せません。今度はお気に入りの春服を着るタイミングを逃しませんように。(菜)

## ▶ 表紙写真

新型コロナウイルス感染症の拡大が落ち着きを見せてきたタイミングで、今度は新たな変異ウイルスのオミクロン株の脅威が私たちの日常生活を脅かそうとしています。引き続き徹底した感染症対策が求められる中で迎える2022年はどんな1年になるのでしょうか。一日でも早く新型コロナウイルス感染症が収束し、かつてのような日常を取り戻せることを切に願います。

